

令和7年度第2回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会 会議録（要旨）

1 開催日時

令和7年12月4日（木）午後4時30分～午後6時30分

2 開催場所

練馬区立区民・産業プラザ Coconeri 研修室2

3 議事要旨

(1) 事務局長挨拶

第6次地域福祉活動計画の初年度として半年が過ぎた。策定した計画をどのように進めるかが重要である。本日は計画の中間報告をさせていただき、計画を推進する各チームに関わる策定委員の皆様からも様々なご意見をいただけたらと思う。

(これより司会を委員長に交代し、議題に沿って進行)

(2) 第6次地域福祉活動計画 取り組みについて

「ねりま社会福祉法人等ネット」について職員より資料1に沿って報告

- ・「就労体験」「交流の場・居場所づくり」「福祉教育」を取組項目として掲げ実施している。
- ・練馬地区は地区祭に参加した。
- ・光が丘地区は地区祭へ参加した。小学校との取り組みとして福祉教育を進めている。
- ・石神井地区は「福祉の世界」として12月14日（日）開催予定。施設見学、福祉の現場の話を行う予定。
- ・大泉地区は農作業を通じた地域交流として11月29日（土）収穫祭を実施した。また、大泉法人ネットを生かした進学等の相談支援を実施した。
- ・令和8年2月に法人ネット全体会を開催予定。

(委員) 7、8年前の参加法人は受け身であったが、これまで各地区で様々な活動を通し、積極的に分野の垣根を超えた地域課題に取り組めるようになってきている。

ネリーズ公式LINEチームについて職員より報告

- ・LINEを利用するにはスマートフォン、パソコンにLINEアプリを入れる必要がある。
- ・9月からネリーズに向け公式LINEの配信をスタートしており、370名が登録している。ネリーズ通信、社協だより、イベント等の情報を随時配信している。見やすいレイアウトの工夫をしている。周知のためのチラシ、カード等を活用し登録者が増えるよう働きかけている。

(委員)・Instagram、Facebookは自ら調べに行く必要があるがLINEはフォローすれば情報を受けられることが利点。

- ・LINEで11月18日（火）配信の大泉地区ネリーズ交流会、11月21日（金）配信の災害ボランティアセンターコーディネーター入門講座のお知らせが来たが、申込みフォームがなかったのが残念。LINEの機能に申込フォームがあるので参考にしてほしい。

(委員) LINEはタイムリーに情報を得ることができる。社協ホームページと連携する中でホームページの情報も見やすくしていくことが大切。

ネリーズ通信チームについて職員より報告

- ・7月に34号、10月に35号を発行した。年明け36号を予定。魅力ある紙面づくりを行いたい。現在1,400部発行。登録者700名に郵送し、民協や関係機関に600枚配布している。今後、郵便局、地域の団体へも広げていきたい。
- ・ネリーズ通信をLINEに表示した際の見やすさを調整した。

(委員) ネリーズ通信を将来ネリーズ同士で作ることが当初からの目標であった。個人だけでなく団体のネリーズも紹介できるようにしたい。紙面でそれぞれの地区の特色を紹介したい。ネリーズマインドを通信で伝えていくことが大切。かるたの活用もしたい。

(委員) 文字が少なめだと読みやすい。個人も大切だが団体の紹介もすることで広がりが出ると思う。

ネリーズ交流会チームについて職員より報告

- ・社会福祉法人等のネットとともに活動できる基盤づくりを進める。ネリーズマインドはあっても活動に踏み出せない人に向けた活動も企画している。
- ・第1回交流会が11月18日(火)、練馬地区の「ホワイトエネこだ」で実施。第2回12月4日(木)大泉地区「まちの駅大泉学園」で実施。「大泉学園まちづくりネット」の落ち葉掃き活動にネリーズが参加した。年明けに第3回交流会を予定。

(委員) 練馬地区は率直な意見交換が参加者同士でありとてもよかった。

(委員) 本日、大泉地区の交流会に参加してきた。落ち葉掃き後の意見交換がとてもよかった。二十歳の青年も参加していた。落ち葉を掃く行為が落ち着くという意見や共に活動を行うことがとてもよかった。関町地区でも行いたいと思った。

ネリーズ登録推進チームについて職員より報告

- ・ネリーズ登録の推進をする目的から今回よりチーム名を変更した。現在、郵便局へアプローチをしている。令和3年から郵便局と社協が何か連携できないかやりとりをしてきた。災害時の取り組みを入り口として連携し、今年3月に郵便局と社協が協定を締結した。社協の広報物を郵便局に置かせて頂き、石神井の郵便局で白百合が作業の実演をした。ボランティアセンターが関わる地域の人が切手アートの作品展も郵便局で行った。
- ・今後法人ネットに参加している法人や地域活動団体、募金箱を設置協力している地域の商店などへもアプローチしていきたい。登録時に掲示してもらったステッカーの作成を進めている。ステッカーにあるQRコードからネリーズ登録もできる仕組みとなっている。

(委員) ステッカーはスッキリとした仕上がりになりよかった。ネリーズとは何かわかることが大切。法人ネットとの連携は大変な作業となると思う。委員のみなさんのステッカーに対する感想が聞きたい。

(委員) ステッカーの効用は「見える化」だと思う。ステッカーを貼ることで他人の事が自分の事になり地域福祉の推進となる。

(委員) 今までのネリーズ交流会は対面等でやってきた。その中でステッカーや LINE はネリーズを伝える有効な「見える化」のツールになる。

(委員) 郵便局5つの部会は社協の地区エリアと重なっているか。郵便局のネットワークが強み。国分寺市の郵便局は地区社協と連携し地域福祉権利擁護事業の講座を行ったようだ。

(職員) 区内郵便局が5部会に分かれている仕組み。郵便局は区内に大小58局ある。ネリーズの発信基地局として期待できることからステッカーの取り組みを進めてきた。

(委員) 最終的には郵便局と避難困難者名簿の連携をしていくか。

(職員) 名簿の連携ではなく情報発信拠点としての役割を期待している。

(3) 第6次地域福祉活動計画 評価について

職員チームより第6次地域福祉活動計画評価について資料2に沿って報告

・評価軸について評価チームで確認する中で、どう課題を見出してどう活動したか、地域の動き、関係者目線など数字だけは表せないことが分かった。

・資料の評価表は計画本編の「目指す姿」、「練馬区社協の取り組み」、「地域での取り組み」が評価シートに反映されている。次回令和8年2月予定の策定推進評価委員会でグループワークを委員皆様と行い地域の活動例等を共有し、評価につなげていきたい。令和8年6月の策定推進評価委員会で評価シートの完成版をお配りしたい。

委員より

・社協の活動の評価は数値で表しにくいことを理解して進める必要がある。

例えば相談のたらい回しで相談件数が上がるが、それでよいということではない。

・社協がどういう成り立ちの組織か忘れてはいけない。どれだけ人と出会ったか、理解したかそのものが評価になるため複雑である。評価を通して地域福祉を考えていくことが大切。

・評価シートは計画本編が反映されたものとなっている。計画がしっかりと評価できる仕組みとなったことがよい。地域の取り組みと社協の取り組みとを分けているため、地域の取り組み、変化を評価できる。

(質疑応答・意見)

(委員) 参加委員それぞれが個性的な活動をしていることが改めて分かった。練馬区の地域福祉計画は幅が広く、社協に担ってもらう事業もある。一緒に取り組んでいきたい。

(副委員長) 委員のみなさんの意見を聞くとワクワクしてくる。地域福祉活動の層が厚くなってきた。本日の大泉の落葉掃きに参加して、初めて出会う人と一緒に活動した達成感があり、とてもよかった。地域で社協の職員が何かやるのではなく、第三者が動き始めている感触がある。

(委員長)

本日の落ち葉掃きはネリーズだけでなく色々な地域の活動団体も参加していた。作業中は会話がなくても一緒に活動ができたことが印象深い。今後も委員みなさんと一緒に取り組んでいきたい。